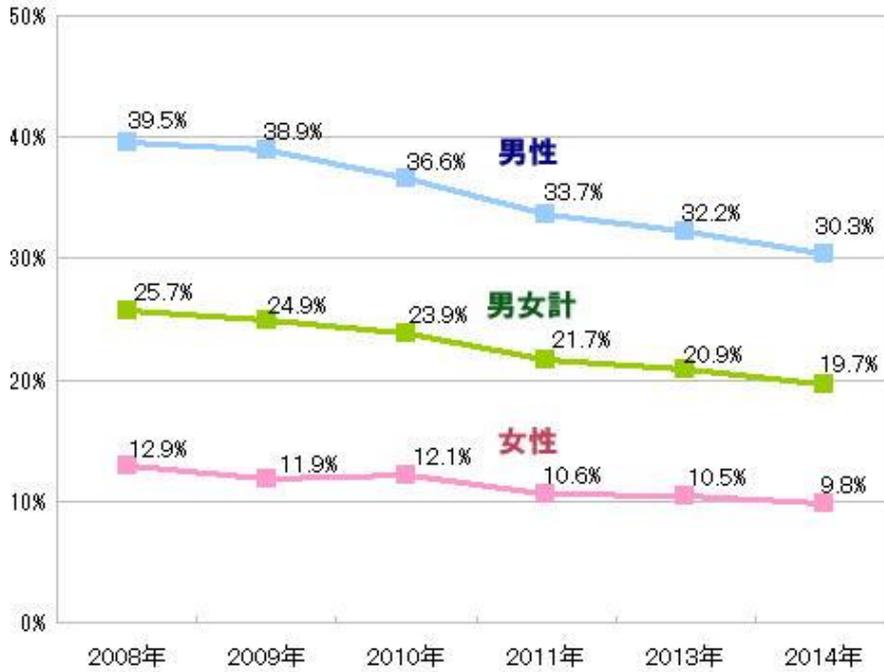


# 週刊 タバコの正体

日本の喫煙者は年々減少しています。日本たばこ産業が実施した全国たばこ喫煙者率調査によると下のグラフにあるように毎年減少を続け、昨年(2014年度)は男性が30.3%、女性は9.8%、男女計は19.7%となっています。つまり、現在の喫煙者は成人の10人に2人しかいないわけです。逆に言

全国の喫煙者率の推移(2008-2014年)



えば10人のうち8人はタバコを吸わないのですから、喫煙者は少数派です。

そんな状況を反映するように、街なかでは“禁煙”のところが多く、喫煙者がタバコを吸える場所は少なくなるばかりです。

だから、工作中に職場を離れ喫煙所にタバコを吸いに行かなければならないとか・・・、タバコ代がバカにならないとか・・・、家族に嫌がられるとか・・・、いろいろ不都合な事が多く、「タバコをやめたい」と感じている人は少なくないようです。

「保健指導リソースガイド」サイトから

出典：全国たばこ喫煙者率調査(日本たばこ産業)

たばこをやめたい人の割合の推移 (平成19~23年)



平成25年度厚生労働省 国民健康・栄養調査の概要より

そこで、左下のグラフを見て下さい。ずばり「タバコをやめたい」と思っている人の割合を示したグラフです。

こちらは喫煙者率のグラフと反対に毎年少しずつ増加し、男性の喫煙者の約半数が「タバコはやめたい」と思っています。

このまま喫煙者は減少し、今タバコを吸っている人もやめたいと考えている傾向が続くとすれば、いつか世の中からタバコが消える日が来るかもしれません。

産業デザイン科 奥田 恭久